

# タイの留学生と交流

## 英会話や紙飛行機作り

### 鹿嶋・清真学園高

国際ロータリー第2820地区(県内)を主体とした交換留学事業「青少年交換プログラム」で来日したタイの学生7人が20日、鹿嶋市宮中の清真学園高を訪れ、生徒と交流した。英語でのコミュニケーションや紙飛行機作りを体験し、国境を越えて親睦を深めた。

プログラムの異文化理解を目的に行われ、昨年、同高生計3人が鹿嶋中央、鹿嶋臨海の両ロータリークラブから推薦を受けてタイに派遣された縁もあり、今回



の訪問が実現した。7人は14～16歳で、現地では高校生に相当。

交流会では「コミュニケーション」をテーマに、日本とタイの学生が英語での会話に挑戦。食文化やお互いの地域の印象などについて意見を伝え合ったほか、紙飛行機を作って飛ばし合う場面もあった。

同高3年の紙田実生子(みづの)さん(17)は、水をかけ合つタイの祭り「ソンクラーン」を知ることができたといい、「日本からは『正月』と『おせち』文化を伝えることができた」と笑顔。留学生のピリヤバ・バランクラさん(15)は「タイでは授業にスクリーンを使うことが多く、黒板を初めて見たので驚いた。日本の生徒がたくさん質問してくれてうれしかった」と話した。

タイの学生らは同日、成田空港に到着し、鹿嶋神宮と息栖神社を参拝。26日ま

紙飛行機作りに挑戦するタイの学生(右)と清真学園の生徒(鹿嶋市宮中)

で日本に滞在し、県内のホストファミリー宅に宿泊もするという。

国際ロータリー第2820地区所属で、下妻ロータリークラブの軽部守彦さん(64)は「互いの国ではできないことを経験できると思う。(国が違う子どもたち同士の交流は)世界平和にもつながってほしい」と話した。

(相馬康児)